大切にしたい視点 ― みんなで考えたい６つのこと

令和8年6月23日　策定委員会　　資料４

これからの荒川区を、ご一緒に考えるための一枚です

＿ いちばん大切にしたい思い ＿

２０年先の荒川区を、どんなまちにしたいか。この計画を、区役所だけのものではなく、ここで暮らし・働く一人ひとりが「自分たちのまちの未来図」として描き、関わっていけるものにできないか。

① 暮らし、にぎわい、まちの発展

まちが新しく変わるとき、誰のための変化にしたいか

西日暮里・三河島などで、新しいまちづくりの動きが出てきました。都心への利便性×下町らしさが注目されています。この動きを、暮らしのためにどう活かせるでしょう。

にぎわい・活気 ？ 荒川“らしさ”

♪ みんなでいっしょに考えたいこと

- 新しい変化を、誰のために、どう活かしたいでしょう？
- わたしたちが残したいもの、新しく育てたいものとは？
- にぎわい、活気、都市観光‥。荒川らしい発展とは？

② 住まいと地域

長く住む人も、新しい人も、これからもこのまちで暮らし続けられるか

地価の上昇や環境の変化で、長く暮らす人、働いている人が暮らしにくくなることも‥。増え続けるマンション、空き家問題、将来的な少子高齢化と全国的な人口減少。

まちの新しい活気 ？ 今の生活を守る

♪ みんなでいっしょに考えたいこと

- 長く住む人も新しい人も、心地よく暮らすには？
- 地価や家賃の上昇で、このまま住み続けられる？
- 人口が減少すると地域の活力も衰退してしまうのでは？

③ 安全、安心、下町のあたたかさ

下町らしいあたたかさを、安全、安心とともに守れるか

家やお店が密集していることは、火事や地震の心配がある一方、路地空間や昔ながらの商店街は、人のぬくもりを感じる荒川らしさの宝です。

整然とした街並み ？ 下町らしさを残す

♪ みんなでいっしょに考えたいこと

- 路地やお店のよさを、どう残していく？
- 防災、防犯と、下町のあたたかさをどう両立する？
- 閑静な住宅街か、多様な用途が混在した密集市街地か？

④ 居心地よく歩いて楽しめるまち

ウォーカブルなまちと利便性の高いまちをどう両立していくか

道路を歩行者専用の道路にするなど、道路空間を活用したまちづくりの動きが全国的に広がっています。荒川区ではどのような取組が考えられるでしょう。

人中心のまち ？ 車で移動しやすいまち

♪ みんなでいっしょに考えたいこと

- 利便性や安全とにぎわいをどうやって両立できる？
- 沿道の事業者や住民の人は不便になるのでは？
- 住宅街の路地で子ども達が遊んでいる風景を取り戻す？

⑤ 地域のつながりと助け合い

地域との関わり方は人それぞれ将来の地域コミュニティの在り方は

災害時の助け合いは必要だけど、日常的にはわずらわしい、という人も。マンションの増加や単身世帯の増加、一方でどこでもつながるネット社会。

地域コミュニティ活性化 ？ 最低限のつながり

♪ みんなでいっしょに考えたいこと

- いざという時の助け合いのためには何が必要？
- 地域に気軽につながれる場所があったら？
- 荒川区らしい地域のつながり方ってどんなだろう？

⑥ まちへの参加・みんなで育てる

まちづくりに、住む人・働く人がどう関わり続けられるか

まちは、住む人、お店、会社などがいっしょに“手を入れて”、育ちます。世代が変わり、外国人を含めて多様な人々が暮らすなか、その輪をどう広げ、続けられるでしょう。

行政がすすめる ？ みんなで育てる

♪ みんなでいっしょに考えたいこと

- ちょうど良い、まちとの関わり方って何だろう？
- 関わりを続けるためには、何が必要でしょう？
- 支え合いながら、高めていくためには？

この一枚の使い方

この一枚はみんなで考えるためのノートです。それぞれのお立場で、感覚で、**「どの視点に関心をもったか」**を、言葉にしてみてください。
個々の課題の解決は決して簡単ではありません。また、多くの課題は単独で解決することは難しく、関係する多くの方々や組織、機関の協力や連携がなくては決して解決できません。しかしながら「どうしたらできるだろう」という難問を考える前に、**それぞれの「こうだといいな」を持ち寄る**ことこそが、２０年先のまちをいっしょに描くための第一歩です。是非、そのようなスタンスでこの一枚をご活用頂ければと思います。

欠かせない視点

①防災性の向上　②子育てしやすい環境づくり　③誰もが健康的にすごせる環境づくり
④誰もが安全、快適にすごせるバリアフリーのまちづくり　⑤環境配慮、緑化推進、憩える環境整備